



合唱コンクールにかける思い

とうとう10日後に迫った合唱コンクール。毎朝、各クラスから聞こえてくる歌声に一日の勇気と元気をもらっています。少し長いですが、先日の全校集会での話を載せさせていただきます。

今年も、合唱コンクールが近づいてきました。各クラス、練習のほうは、うまくいっていますか。先生は、「合唱コンクール」というと、毎年、思い出す出来事があります。先生もこれまで何回も担任をしてきたので、合唱コンクールも何回も経験してきました。わりと歌の好きな子がクラスに集まっていて、最初からクラスがまとまり、あまりしんどい思いをせずに、最優秀賞をいただいた年もありました。逆に、なかなか、生徒がやる気にならず、最後の最後まで叱ったり、悩んだ年もありました。そのなかでも、一番思いだすのが、十三年前の合唱コンクールです。先生は、三年生の担任をしていて、その学年は4クラスあったのですが、学年全体としては、男子も女子もとても歌が好きで、合唱コンクールに向けて、みんなすごく燃えていて、音楽の先生も驚くくらい、どのクラスも難しい曲に取り組み、とてもレベルの高いコンクールになりそうでした。ところが、先生のクラスだけは、女子は、とても最初からやる気があるのだけど、男子は、おとなしい生徒や一見、あまり気力が感じられない生徒が多く、本当に声が出ないのです。女子とのバランスも悪いし、音楽の先生も困り果てている状態でした。先生も、男子にいろいろ、話をしたり、呼びかけもしたのですが、なかなか、うまくいきません。そして、とうとう、コンクールの前日、事件が起こりました。いつものように、昼休み、教室で全員で練習していたのですが、男子の声があまりにも小さいのに、しびれをきらした女子のリーダーが、「もう、ええ加減にしてよ。やる気ないんやったら、コンクールに出んときよ！」と男子に詰め寄り、日ごろ、あまり、何も言わない男子も、「ちゃんと歌おうとしてるのに、そんな言い方されるからやる気なくすんや！」と反撃し、なきわめく女子やら、クラスが騒然とした状態になってしまいました。明日、コンクールなのですよ。先生は、それまで、「三年生だし、できるだけ、自主性に任せて、あまり口出ししないでおこよう。」と我慢していたのですが、これでは、クラスは空中分解してしまう、放っておけないと思い、全員に席につくように言って、まず、先生から話をしました。二学期にはいって、文化祭で学級劇もしたのですが、その時は、みんな、本当によく頑張り、すごく達成感があったこと。もう、あと、このクラスで一緒に過ごすのも、数か月なのに、こんな状態で、最後の合唱コンクールを終えたら、一生悔いが残ることなど。先生は、これまでの取り組みを見ていて、まだまだ、全員が本音をだして、気持ちをひとつにできていないと思う。少なくとも、全員の本当の気持ちをしっかり言い合おうと言って、急ぎよ、5時間目の授業をいただいて、全員ひとりずつ、気持ちを言うように促しました。女子からは、自分たちも、他のクラスに負けにくいくらい良い合唱をしたいけど、いつも、男子がしっかり歌ってくれなくて、悔しい思いをしたことを、涙ながらに、それぞれのことばで言っていました。男子からは、自分は歌が苦手で自信がないけど、自分なりにがんばろうとしてたけど、いつも女子に「もっと声だしよ。」と言われ、他のクラスの男子と較べられてばかりで、どんどん、やる気をなくしていったことなどを言っていました。全員、一人残らず、思いを出し合ったところで、「じゃ、どうする？」とたずねると、「もう一回みんなでがんばろう！」と自然に声があがり、その日は、放課後、12月の寒いなかを外で最終下校の時間まで、全員で何度も何度も歌っていました。

翌日、コンクールの日、午前中、たまたま、音楽の授業があったのですが、授業のあと、音楽の先生が「どうしたんですか。すっかり声が変わりましたね！」と驚いて、報告に来てくれました。先生は、やっと心がひとつになったなあと思いました。さて、本番。先生のクラスは学年で一番目の発表順です。女子のなかには、これまでの思い、昨日の出来事を思い出して、歌う前からすでに泣いている生徒がいます。「最後までがんばれ！」と先生は心のなかで何回も叫んでいました。決して、上手な合唱とはいえませんが、先生には、生徒ひとりひとりの思いは十分に伝わってきて、知らぬ間に涙が流れていました。ほかのクラスは、予想通り、とても上手で、当然、最優秀賞はいただけませんでした。先生は、それ以上のものを生徒たちからもらった気がしました。コンクールが終わって、教室に戻ると、生徒がもう一度並んで「先生、もう一回聞いて。」と、課題曲と自由曲を歌ってくれました。生徒たちの満足げな顔を見ると、賞をとるとか、とらないとか関係なく、生徒たちが最後の最後で、心をひとつにして歌ってくれたことに先生もとても満足感を感じました。ですから、十年以上たった今でも、合唱コンクールの季節がやってくると、このときのことを思い出します。

今から思えば、もっと早い段階でお互いが本音を出し合い、練習をしていれば、もっともっと良い歌が歌えたのではないかと思います。合唱は正直です。心から歌と向き合い、仲間と向き合わなければ、人を感動させる合唱にはなりません。みんなでひとつになり、一緒に歌えてよかったと、どのクラスも思えるような合唱に残りの日々で仕上げていってくれることを心から願っています。